

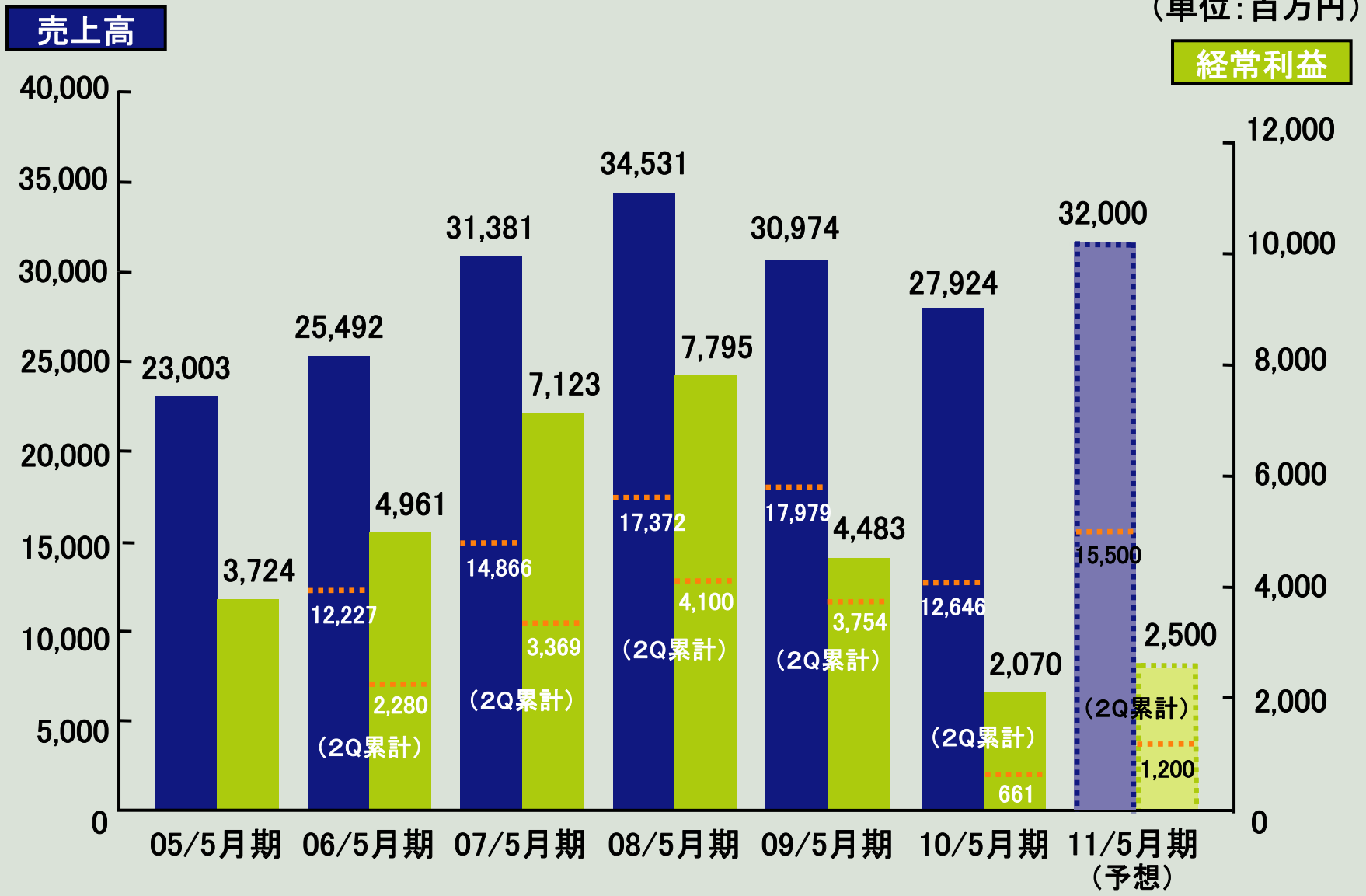
東洋炭素 2010年5月期 決算説明資料

2010年7月

東洋炭素株式会社

1-1.	業績推移	P. 3
1-2.	2010年5月期業績	P. 4
1-3.	経常利益増減要因	P. 5
1-4.	売上高内訳	P. 6
2-1.	2011年5月期業績予想	P. 9
2-2.	将来への投資（設備投資・減価償却費・研究開発費）	P. 10
2-3.	株主還元	P. 11
2-4.	主要経営指標の推移	P. 12
3.	成長を下支えするスーパーコモディティーブラシ事業	P. 13
(参考1)	製品・分野別概況	P. 15
(参考2)	2010年5月期貸借対照表	P. 17
(参考3)	2010年5月期キャッシュ・フロー計算書	P. 18

1-1. 業績推移



1-2. 2010年5月期業績

	09/5月期	10/5月期	増減額	増減率
	(単位:百万円)			
売上高	30,974	27,924	▲3,049	▲9.8%
営業利益	4,741	2,253	▲2,488	▲52.5%
(売上高営業利益率)	(15.3%)	(8.1%)		
経常利益	4,483	2,070	▲2,413	▲53.8%
(売上高経常利益率)	(14.5%)	(7.4%)		
税引前利益	4,615	2,225	▲2,390	▲51.8%
当期純利益	2,566	1,442	▲1,124	▲43.8%
1株当たり 当期純利益	123円80銭	69円56銭		
為替レート	99.6円/\$ 138.3円/€	92.0円/\$ 129.3円/€		

ポイント

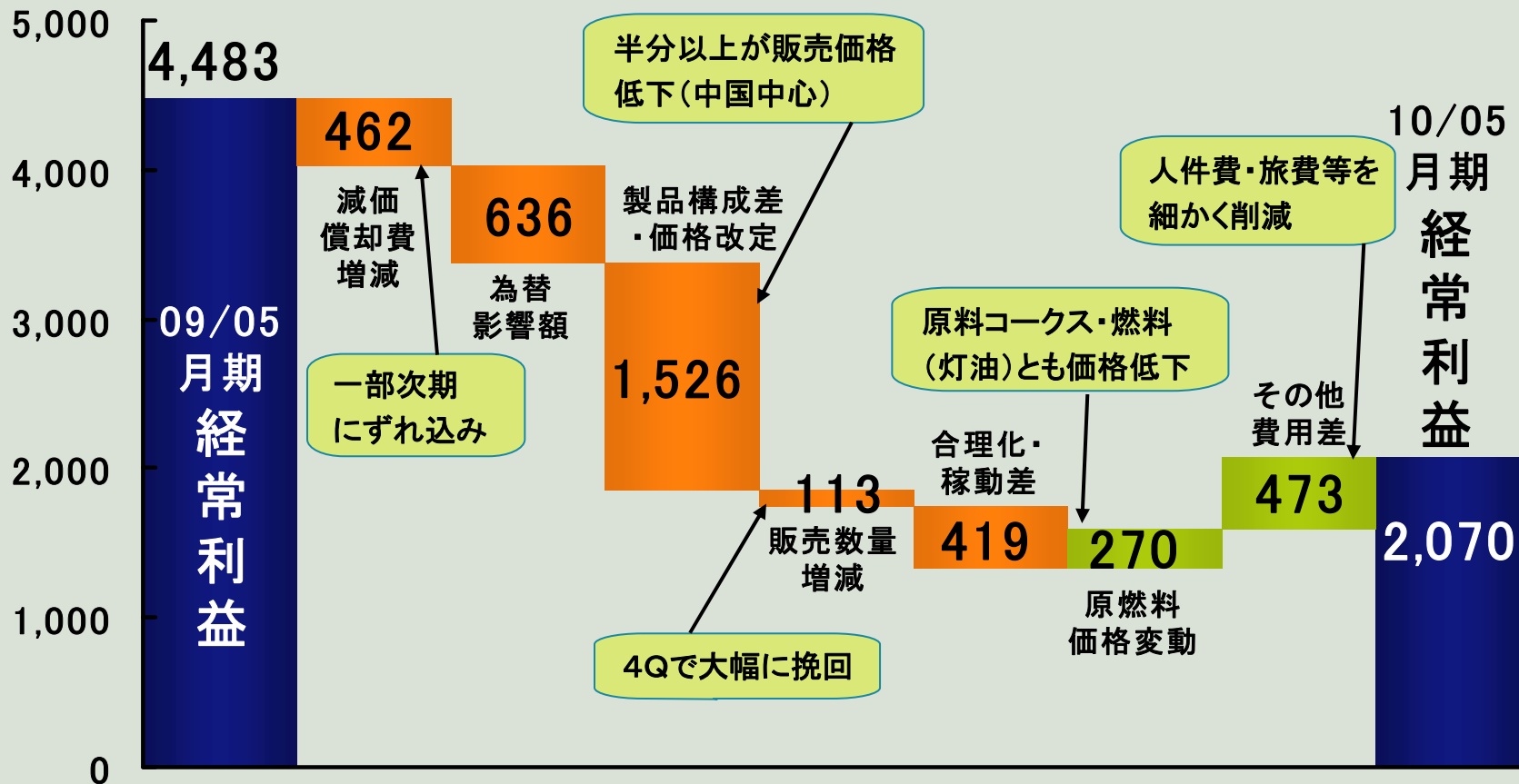
- ・3Qまでは顧客の生産・在庫調整の影響引きずり一部用途を除き苦戦。
- ・4Qに入ると旺盛な受注を背景に一転急拡大、四半期ベースではピーク時に迫る売上を計上。
- ・円高の影響や市場価格水準の低下きついが前年比1割減の水準に着地。

- ・売上減による限界利益減に加えて、円高・減価償却費増・市場価格低下等の影響も含めて利益幅縮小。
- ・ただし4Qは売上急増にともない利益幅改善。

1-3. 経常利益増減要因

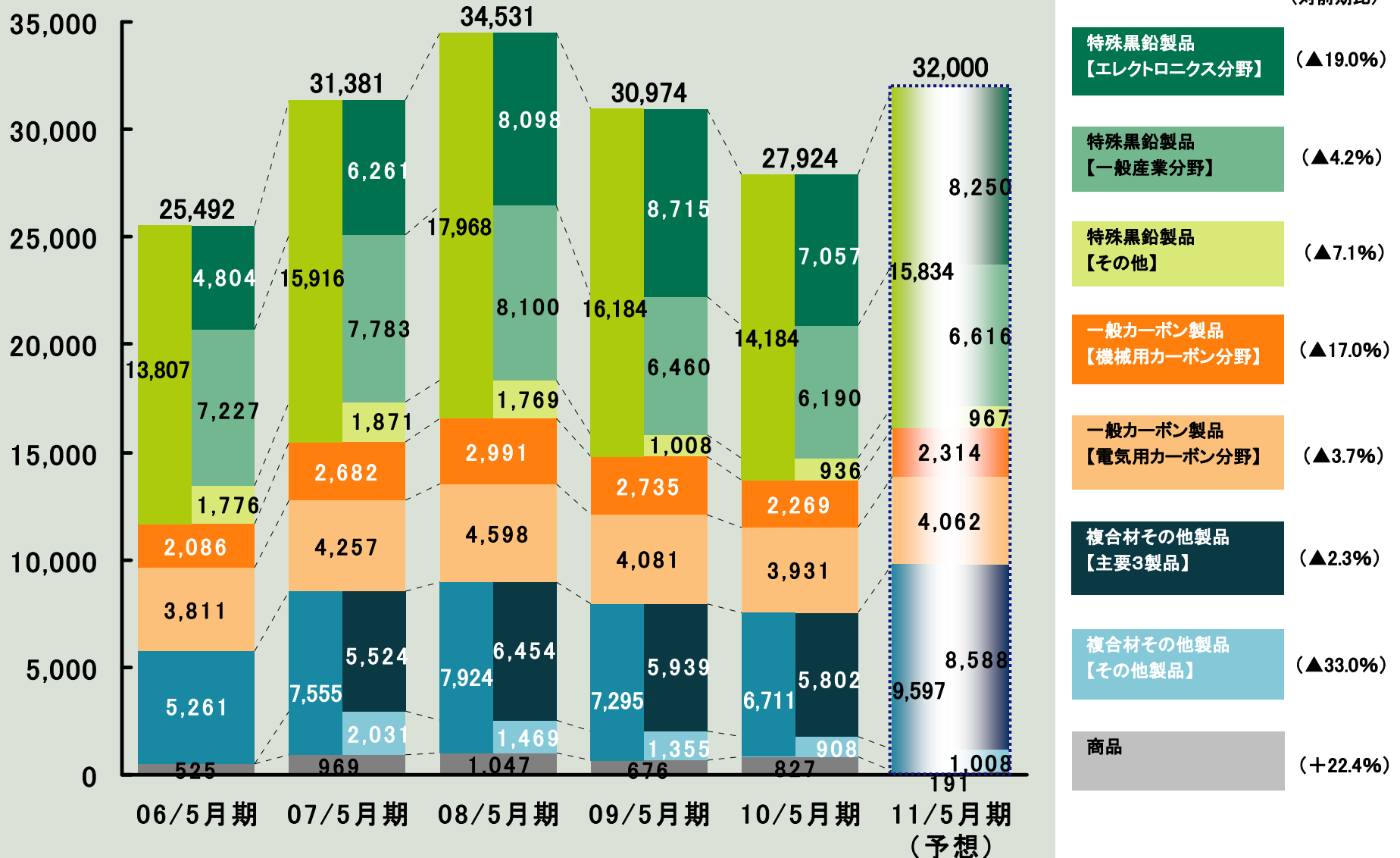
減価償却費増・円高の影響と市場価格低下を主因に減益

(単位:百万円)



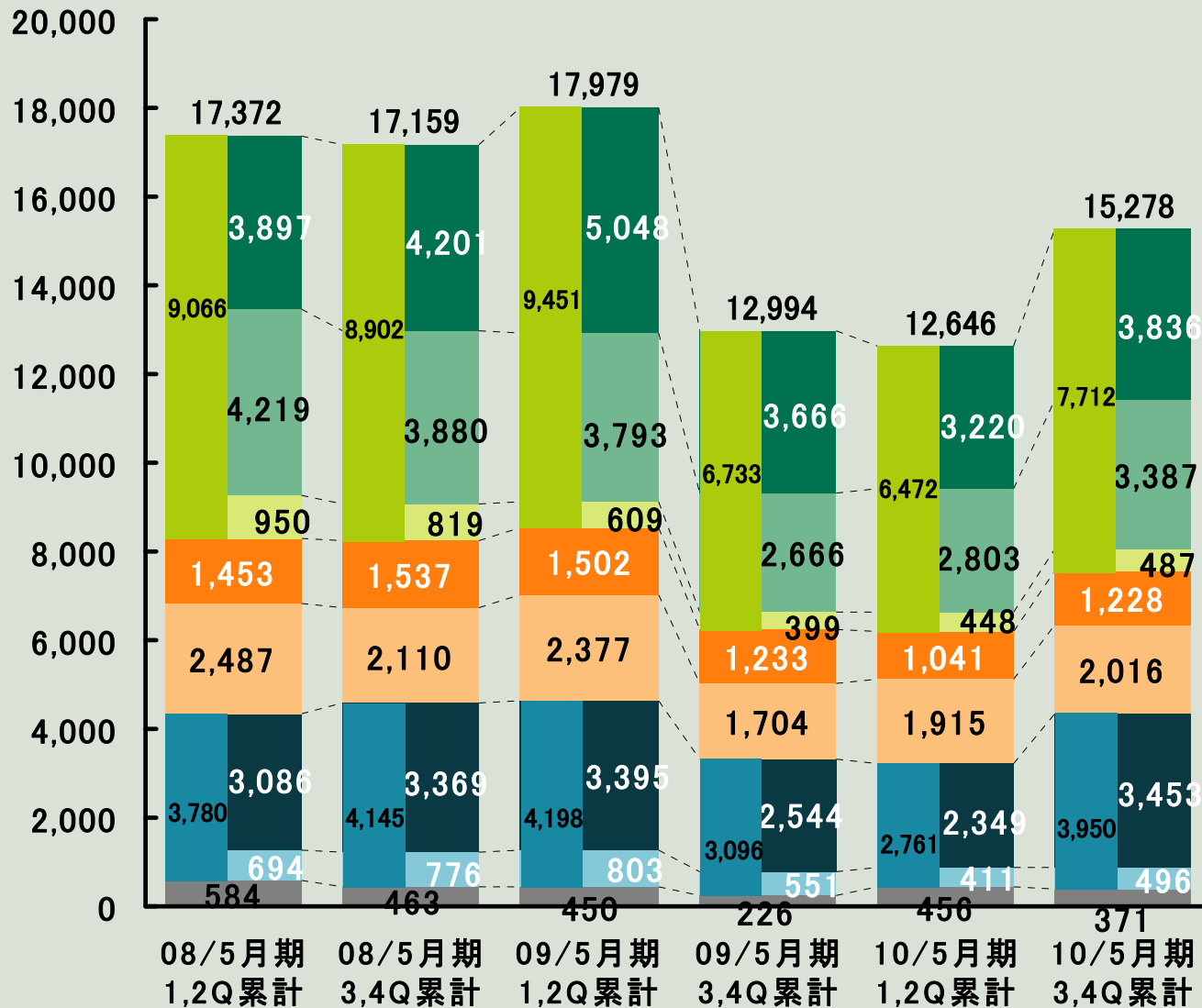
1-4. 売上高内訳 製品・分野別

(単位: 百万円)



1-4. 売上高内訳 製品・分野別（半期ベース）

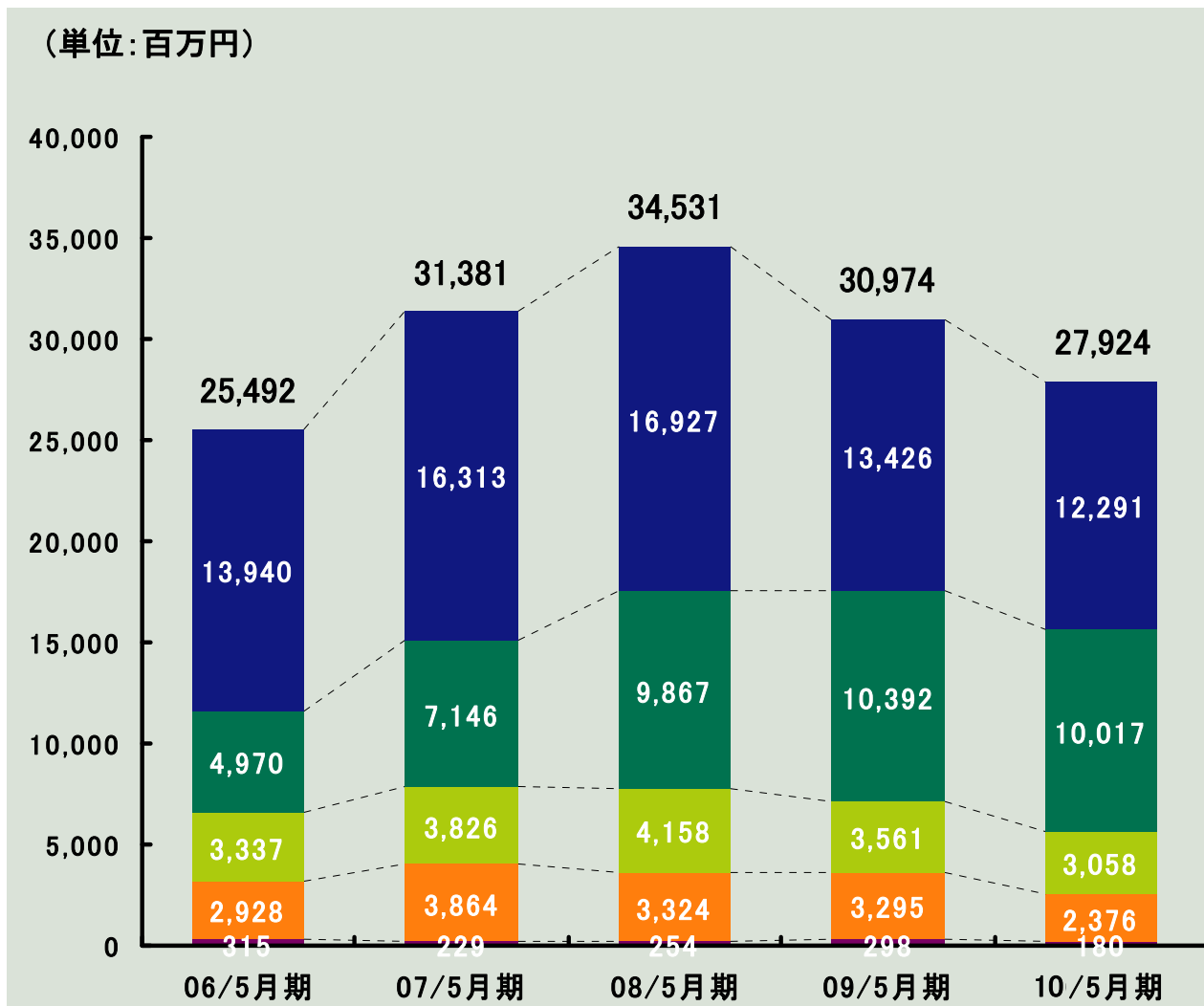
(単位: 百万円)



- (対前期比)
- 特殊黒鉛製品【エレクトロニクス分野】 (+19.1%)
 - 特殊黒鉛製品【一般産業分野】 (+20.9%)
 - 特殊黒鉛製品【その他】 (+8.7%)
 - 一般カーボン製品【機械用カーボン分野】 (+17.9%)
 - 一般カーボン製品【電気用カーボン分野】 (+5.3%)
 - 複合材その他製品【主要3製品】 (+47.0%)
 - 複合材その他製品【その他製品】 (+20.5%)
 - 商品 (▲18.5%)

1-4. 売上高内訳 地域別

引き続き海外売上高比率は高水準(56.0%)、特にアジア地域のプレゼンス上昇



構成比

日本

(44.0%)

半導体を中心に生産・在庫調整の影響を引きずり低迷

アジア地域

(35.9%)

化合物半導体やブラシが健闘、終盤には主力の太陽電池も回復し増勢基調

欧州地域

(11.0%)

欧州経済の低迷を背景に全般に低調

北米地域

(8.5%)

主力の半導体・太陽電池・ポリシリコン製造用が失速、ただ終盤には底入れ

その他地域

(0.6%)

2-1. 2011年5月期業績予想

(単位:百万円)

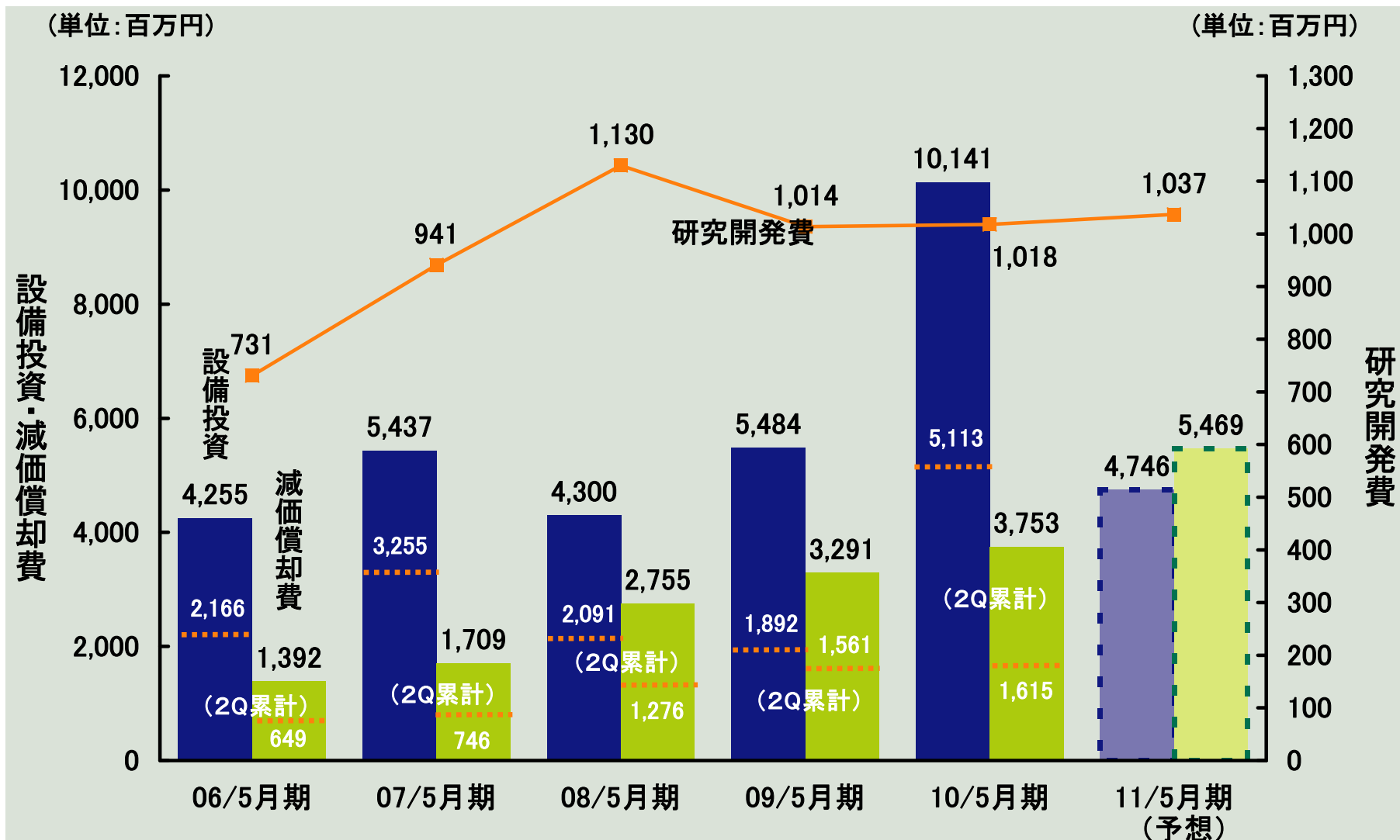
	10/5月期	11/5月期 予想	増減額	増減率
売上高	27,924	32,000	4,075	14.6%
営業利益	2,253	2,500	246	11.0%
(売上高営業利益率)	(8.1%)	(7.8%)		
経常利益	2,070	2,500	429	20.8%
(売上高経常利益率)	(7.4%)	(7.8%)		
当期純利益	1,442	1,500	57	4.0%
1株当たり 当期純利益	69円56銭	72円34銭		
為替レート	92.0円/\$ 129.3円/€	90円/\$ 110円/€		

ポイント

- ・主力の太陽電池・半導体関連を中心に各用途とも本格回復へ。引き続きアジアが牽引。
 - ・LED用を主とする化合物半導体の活況を受けコーティング製品が大幅伸長。C/Cコンポジット製品も太陽電池用中心に急拡大。複合材製品の構成比率3割へ拡大。
 - ・円高による目減り(前年比約▲10億円)あるが、再び成長を目指すべく、320億円(前年比14.6%増)を見込む。
- ・売上増による限界利益増を取り込むが、前期の大型投資にともなう減価償却費の大幅増(+17.1億円)・円高の影響・一部用途での価格低下等も勘案し、経常利益は25億円(前年比20.8%増)に設定。

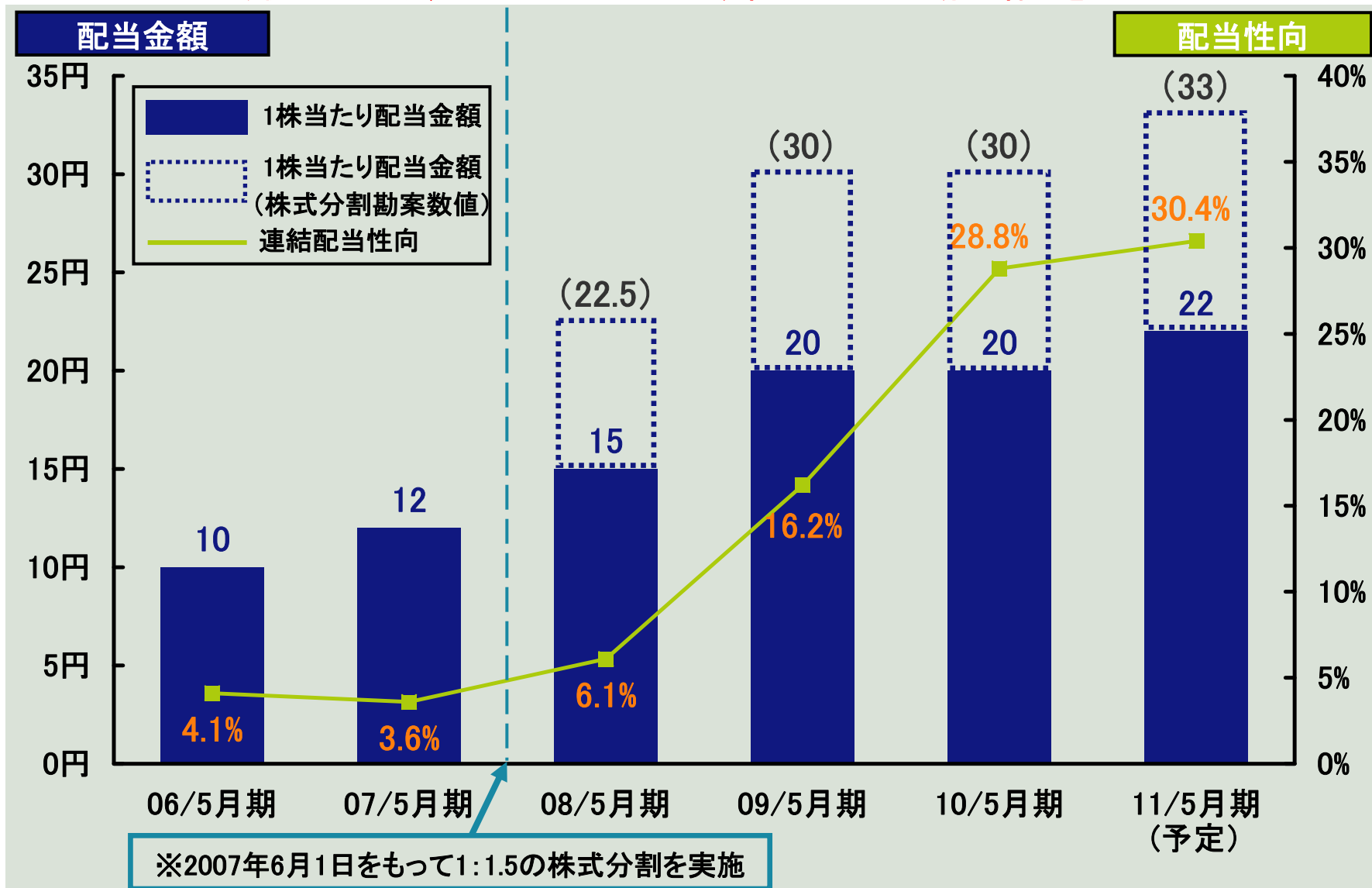
2-2. 将来への投資 (設備投資・減価償却費・研究開発費)

等方性黒鉛詫間新工場が本格稼働開始。大型投資一巡で投資規模は定常水準に。
前期の高水準投資にともない減価償却費はピークを迎える。

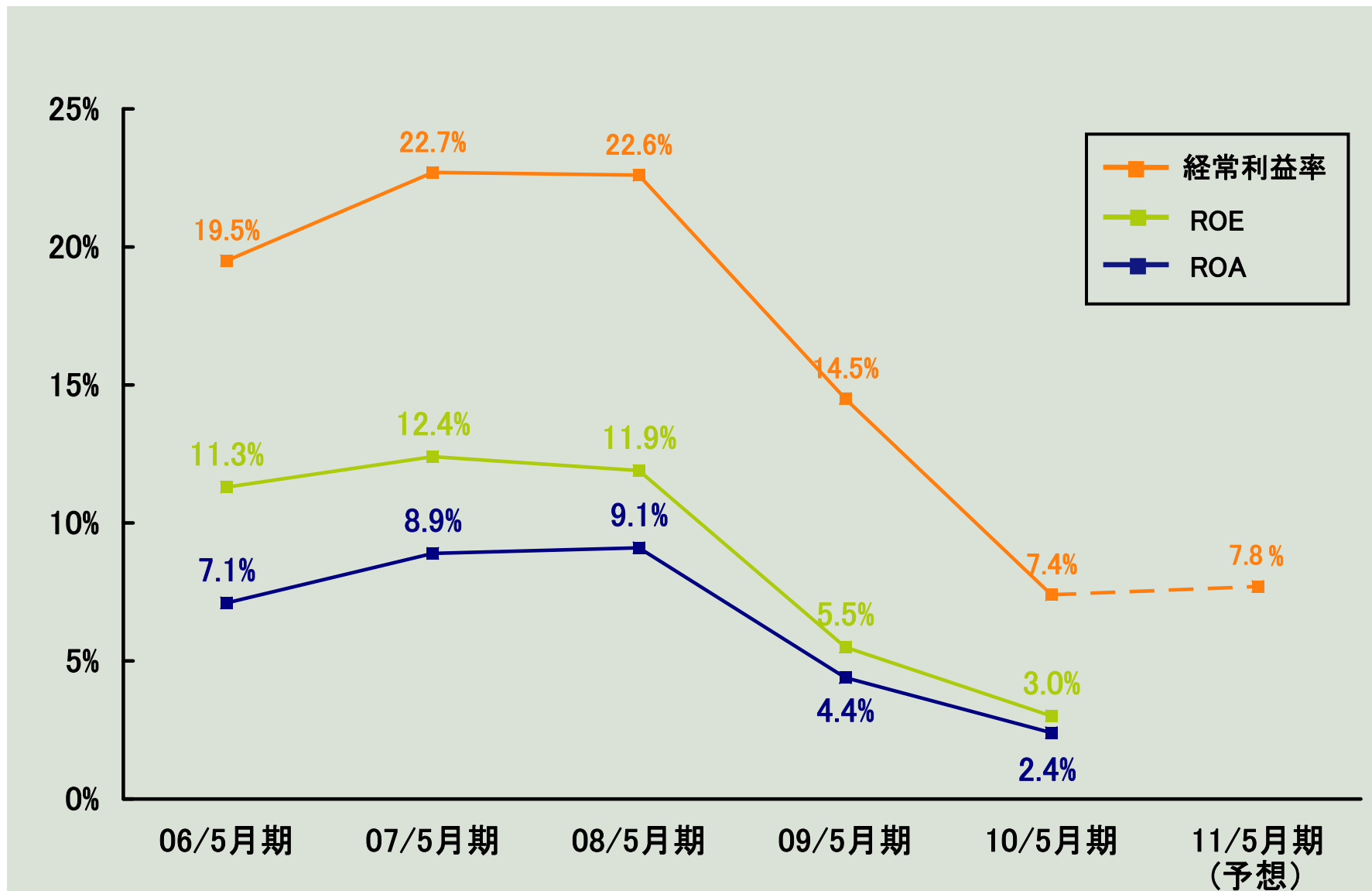


2-3. 株主還元 配当推移

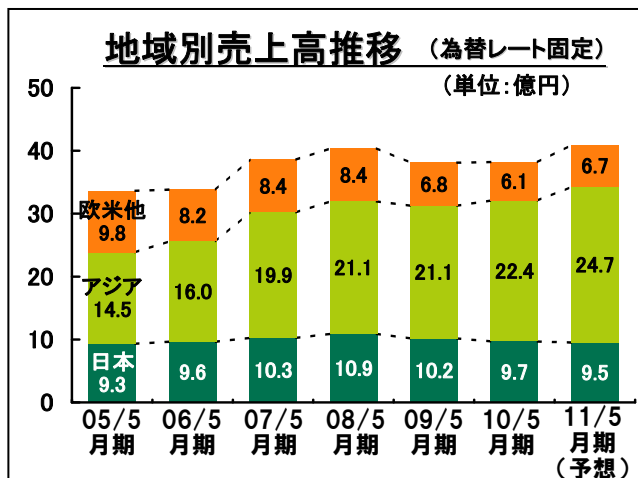
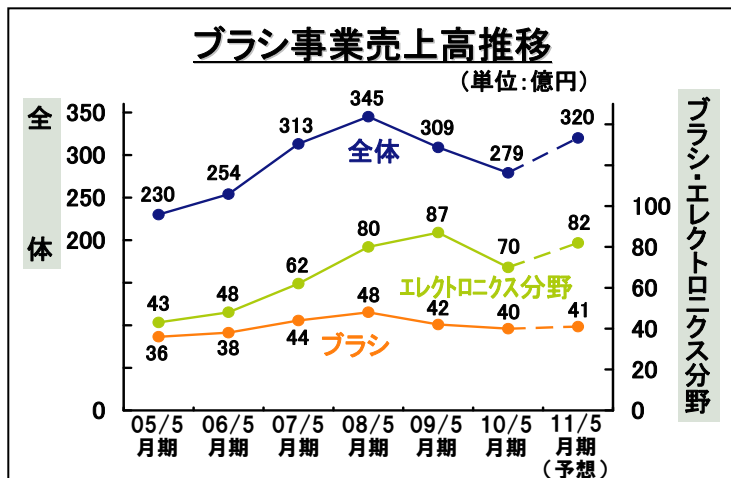
今後の利益成長とキャッシュフロー改善もにらみ次期は増配を計画



2-4. 主要経営指標の推移



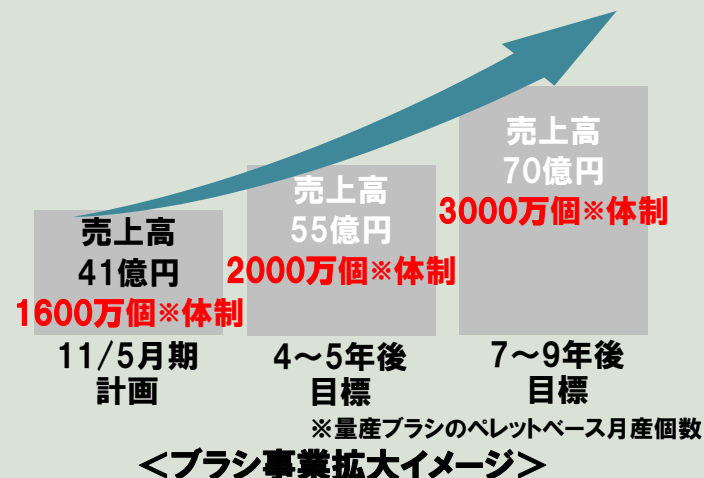
1. ブラシ事業の展開状況と特徴



- ① 景気変動の影響少なく、緩やかながら**安定的な成長**を持続。
- ② 利益率も高くはないものの**安定的に二桁水準を維持**し業績を下支え。
- ③ 主要3用途の市場規模は約120億円、**当社シェア約3割**。(特に掃除機は約5割とトップシェア)
- ④ 早くからグローバル化が進展。いち早く中国・欧州に拠点を築き、**海外売上高比率約8割**に。
- ⑤ 組織・会社・地域横断型の**グローバル・ビジネス・ユニット**を組成し、グローバル対応を強力に推進。
- ⑥ 当社の創業事業。成熟産業でありながら、新興国の成長余地大きく、開発や技術革新もKEYとなる**スーパーコモディティ**。

2. 今後の展開戦略と中期ビジョン

- ① 新興国を中心に市場は緩やかに成長。シェアアップも含めて、安定的に**年率5%以上**の事業拡大を図る。
- ② 日本・中国・欧州の3拠点の**生産体制の増強**を推進。
- ③ **グローバル対応**をさらに加速。グローバルオペレーションも拡充するとともに、新しい地域への進出もスタディ開始。
- ④ **新製品開発**ならびに**新規用途開拓**の推進。
- ⑤ 市場価格低下に耐えるべく、一層の**コスト低減**を推進。
(自動化・プロセス改善・最適地生産化等の推進)



グローバルブラシ会議 (2010.07.07~08)



(参考1) 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(1/2)

	用途	用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し
		10/5月期 1、2Q	10/5月期 3、4Q	11/5月期 予想	
特殊黒鉛製品 エレクトロニクス分野	太陽電池製造用				<ul style="list-style-type: none"> ・ 上期は中国および欧州市場を中心に需要低迷続いたが、特に年明け以降は中国を中心に回復色が鮮明に。 ・ 国内市場も下期に入り増勢基調。大手顧客の稼動増に加えて新規設備の立上げも進みつつあり、今後も強含み。 ・ 4Qの売上高としてはピーク時の約8割の水準(C/Cは除く)なるも、為替・価格ダウン等を勘案すれば数量ベースでは約9割の水準まで回復。 ・ 環境志向を背景としてマクロ環境も改善、一時の混乱も収束し緩やかながら再び成長軌道に。今期は、円高による目減りあっても前年比3割以上の増、今下期にはピーク時並みの売上水準を見込む。
	単結晶シリコン製造用				<ul style="list-style-type: none"> ・ 顧客の在庫調整の影響長引き低迷していたが、年明け以降受注回復し、4Qではピーク時の約9割の売上水準まで戻る。 ・ ただし様子見となっている300mmの増設については現時点では不透明でもあり、今期は4Q比若干増の売上水準を目論む。
	化合物半導体製造用				<ul style="list-style-type: none"> ・ ノンコート品は、主に携帯電話用スイッチICやPC無線LAN向けのGaAs基板製造用で使用。国内市場がメインで、今後も含めて安定的に推移。(LEDを主とする化合物半導体製造用は殆どがコーティング品であり、後段のSiCコーティング黒鉛製品の欄にて記載)
一般産業分野・その他	放電加工電極用				<ul style="list-style-type: none"> ・ 下期に入り回復基調に。特に中国をはじめとする海外市場を中心に、自動車・家電産業の回復を受けて需要戻る。 ・ 金型業界は業況厳しく競争も激化、特に国内市場は厳しい状況続く。アジアをはじめとする新興国でのさらなる需要増に期待。
	連続製造用・冶金用他				<ul style="list-style-type: none"> ・ 景気回復と、特に新興国でのインフラ投資の活発化を背景に、全般に需要の戻りは早い。 ・ 自動車関連および半導体/電子部品関連産業の好調に呼応し、光ファイバー・電子材料用や工業炉・連続製造用を中心に今後とも堅調に推移予定。

(参考1) 製品・分野別概況 ポイントおよび今後の見通し(2/2)

	用途	用途別売上高イメージ			ポイントおよび今後の見通し
		10/5月期 1、2Q	10/5月期 3、4Q	11/5月期 予想	
一般カーボン製品	機械用カーボン分野 一般産業用				<ul style="list-style-type: none"> 国内は、主力の軸受け・シール材等がポンプ・エアコン等の復調を受けて下期以降は回復基調に。今後もなだらかに回復が続く見込み。 遅れていた海外も、エネルギー・インフラ関連の伸張を背景に、新規顧客開拓含めて進捗中。
	輸送機械用				<ul style="list-style-type: none"> 景気変動の影響少ないパンタグラフ用すり板は、規模は小さいながら堅調。私鉄への拡販も徐々に進展。懸案である海外展開に向けて、協業等も含めて検討・模索中。
	電気用カーボン分野 小型モーター用				<ul style="list-style-type: none"> 世界的な景気持ち直しを受けて、主力の中国を中心に需要の戻り早い。海外売上が約8割を占めるが、円高による目減りをこなし売上は漸増基調。国内も持ち直すも、空洞化の影響も含めて相対的には厳しい。 中国を中心にグローバル戦略を推進し更なる拡販に注力。中国では設備増強も順次計画中。
	産業用・自動車用他				<ul style="list-style-type: none"> 産業用は低迷を脱し徐々に持ち直しつつあるが、売上規模は依然小さい。自動車用(フュエルポンプ等)は、ハイブリッド車や二輪車が牽引し引き続き堅調に推移。
複合材その他製品	主要3製品 SiCコーティング黒鉛製品				<ul style="list-style-type: none"> 化合物半導体用はLED向けを中心に引き続き絶好調。特に韓国・台湾・中国での増設目白押しで需給タイト感強まる。国内勢もアジア勢には遅れをとるも活発化。LCDバックライト用に加えて照明用も本格化の気配あり、化合物半導体用は今後とも活況継続。半導体関連(Si-Epi用等)もようやく底を脱し本格回復の様相。 TOTALとして下期実績は上期比約3割増となり、さらに今年通年では前年比約7割増の拡大を見込む。供給体制も日米拠点で大幅な設備増強を実行中。素材～加工～コーティングの一貫競争力をさらに高めて圧倒的な優位性を確保していく。
	C/Cコンポジット製品				<ul style="list-style-type: none"> 300mmウエハー製造用は主要顧客の在庫調整長引き苦戦が続くが、徐々に消化も進みようやく回復の兆しが見え始めた。 太陽電池関連は4Qに入り薄膜タイプ向けや新規案件が重なり大幅増に。また既に受注済みの核融合炉向けの納入も始まったこともあり、一転急拡大へ。 下期実績は上期比倍増となり、さらに今年通年では前年比約4割増の売上を見込む。
	黒鉛シート製品				<ul style="list-style-type: none"> 主力の自動車用・半導体用が先行して回復に転じ、既に上期から順調に推移。今後も引き続き堅調に推移する模様。

(参考2) 2010年5月期貸借対照表

	(単位:百万円)		ポイント
	09/5月末	10/5月末	
資産合計	58,821	61,786	● 第4四半期の売上回復により09/5末比2,398百万円増。
受取手形及び売掛金	8,257	10,656	
たな卸資産	9,520	10,910	● 中間在庫の計画的積み増し等により09/5末比1,390百万円増加。
有形固定資産	23,208	28,290	
負債・純資産合計	58,821	61,786	● 等方性黒鉛および付加価値工程の能力増強等により、09/5末比5,082百万円増加。
有利子負債	1,394	2,113	
資本金	7,692	7,692	
純資産	48,606	48,960	
自己資本比率	80.6%	77.4%	

(参考3) 2010年5月期キャッシュ・フロー計算書

	(単位:百万円)	
	09/5月期	10/5月期
現金及び現金同等物の 期末残高	6,412	5,802
現金及び現金同等物の 増減額	▲4,079	▲609
現金及び現金同等物の 期首残高	10,491	6,412
営業活動によるCF	5,105	3,377
投資活動によるCF	▲8,420	▲4,103
財務活動によるCF	▲568	252

ポイント

- 減価償却費の増加あるも、純利益減少。

- 有形・無形固定資産取得による支出あるも、定期預金払い戻しあり縮小。



(注) 本資料のうち、業績見通し等に記載されている将来の数値は、開示時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでいますので、実際の業績は、業況の変化などにより異なる場合があります。

<お問合せ先>

東洋炭素株式会社 広報・IR担当

TEL:06-6451-2114(代) FAX:06-6451-2186

E-mail: ir@toyotanso.co.jp